

第5学年 算数科学習指導略案

日時 10月27日(月) 3校時

(10:35~11:20)

指導者 佐藤 光彦

1. 単元名 小数のわり算を考えよう (本時 6 / 13)

2. 本時のねらい

- ・ 小数の除法におけるあまりの位取りについて理解し、その計算ができる。

3. 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点
1. 指導主事の先生から本時の問題を確認し、小数のわり算の式を考える。 2.5ℓのジュースを、0.7ℓ入りの水とうに入れています。 何個の水とうをいっぱいにできますか。 また、何ℓあまりますか。 2. 小数のわり算であまりを求める場合について の計算のしかたを考える。 小数のわり算のあまりの大きさについて考えよう。 【予想される解決方法】 ①ℓ図を分けていくと4目盛り分あまるから。 ②筆算で計算したときの4は、 $\begin{array}{r} 0.7 \overline{) 2.5} \\ \underline{2.1} \\ 4 \end{array}$ $\begin{array}{r} 3 \\ 0.7 \overline{) 2.5} \\ \underline{2.1} \\ 4 \end{array}$ ③検算すると0.4ℓの方が合っているから。 3. 指導主事の先生に解決の結果を報告する あまりの小数点は、わられる数のもとの小数点にそろえてうつ。 $\begin{array}{r} 0.7 \overline{) 2.5} \\ \underline{2.1} \\ 4 \end{array}$ $\begin{array}{r} 3 \\ 0.7 \overline{) 2.5} \\ \underline{2.1} \\ 4 \\ \underline{0.4} \end{array}$ 4. 適用問題に取り組む。 5. 本時の学習を振り返る。	・ I・TVをつなぎ、指導主事の先生より本時の問題を提示していただく。 ・ わり算であることを確認し、立式する。 ・ 答えは、水とうの個数とあまりの水の量を求めることを確かめ、あまりの数量を求めることへの意識を持たせる。 ・ 答えをクラスで検討し、後ほど指導主事の先生に報告することを約束する。 (問題提示後、I・TVを切る) ・ 式・筆算・ℓ図などを用いて各自が自力解決できるように方法を選択させるとともに、それに合わせたヒントカードを準備しておく。 ・ 児童の自力解決の結果から、あまりの大きさは4ℓと0.4ℓのどちらが正しいかに話し合いを焦点化し、集団解決で類型化する。類型化された考えを2～3人の児童に代表して報告させる。 (I・TVを再接続する) ・ 児童の報告を受けて、指導主事の先生とあまりの表し方について確認する。 (終了後、I・TVを切る)

4. 評価

- ・ あまりの小数点の位置を被除数と関連づけて考えている。(数学的な考え方) ノート
- ・ あまりのある場合の小数の除法計算ができる。(表現・処理) ノート